

「しあわせの村・市民探鳥会に68名参加
野鳥は温暖化防止に貢献」！

「野鳥と自然観察会」代表 生環11 茅中 英一

平成21年11月8日(日)午前、恒例のしあわせの村主催の市民探鳥会が開かれ、好天にも恵まれ市民68名が参加。芝生広場を起点に、2グループに分けて、鎮守の森—白川出口—テントキャンプ場—堂坊池を経由、芝生広場に戻る約4KM、2時間のコースを全員無事ウオッチ。

観察出来た野鳥の内冬鳥は時期が少し早かったせいかシベリアなどからの美しい渡り鳥ジョウビタキだけでしたが、オオタカやクサシギなどに出会え合計20種類でした。鎮守の森では歩道沿いに設置していた巣箱No.9とNo.29を開けたところ、幸い2箱とも春にシジュウカラが巣立った跡の巣材が残されていて、参加者はその芸術的とも言える見事な作りに感動していました。巣材は巣箱に合わせ縦15cm、横12cm、高さ7cmで近くにあるスギゴケを基材に卵やヒナが触れる部分は柔らかい羽毛、犬猫などの毛や綿毛等をお椀状に敷き詰めていました。そして当会会員が巣箱を樹に設置する作業にも参加者に立ち会ってもらいました。

平成18年春からの21年春までの4年間しあわせの村に設置した約50個の巣箱から毎年160 -

180羽のヤマガラやシジュウカラのヒナが巣立ちましたが、外敵や餌不足などで翌春までの生存率は10%未満と言われ自然界の厳しさが伺われます。

野鳥たちは地球温暖化防止に貢献しています。CO₂を吸収する樹の葉を食べる昆虫を餌として樹を守り、そして樹の実を食べてその種をフンとともに各地に散布して森を広げCO₂吸収を増やします。このように私たちを助けてくれている野鳥たちを巣箱や植樹で守ろうではありませんか。



野鳥観察風景(上)と雛の巣立ったシジュウカラの巣箱(下)

いかり共同作業所で色紙指導

生環9期 長谷川 博

ケナフの会で紙すき指導しているいかり共同作業所で色紙の販売を始めました。紙すき指導の中でポストカードに「絵を描いたら」との発想が1段進んだ色紙となった次第。

当会員で絵心のある松井さんにいかり共同作業所の作業員を指導していただき、ガラス版画を作り色紙、ポストカードなどを作成しました。当然指導には忍耐と困難を伴いましたが、販売したところ注文が多く何回も追加制作を致しました。グループの会員の方も、購入のほどお願いいたします。

〔トンパ文字とは、中国のチベット東部や雲南省麗江市に住む少数民族の一つナシ族に伝わる、象形文字の一種である。ナシ語の表記に用い、異体字を除くと約1400の単字からなり、語彙は豊富である。ーウィキペディアよりー〕



絵柄は虎、夢の2種類です☆来年の干支や初夢に、新年の願いをこめて飾ってみませんか？絵柄は指定できません。